



54

3
1961
54





山東京傳作

皇朝書影
全

遠54
1961
148

1961
54

上巻の中巻の下巻

赤木他の赤木ハ古風紙幕人
俗者此捨丈破虎直あが虫初の
紫瓦海は能も群る尚の文鏡

曾我の
中村

草麻の草麻ハ千歳も草麻
在屋此株小林此奈が紋付の
正月およ今も清るお鶴の暖簾

芝居の
中村

将場居の板下ハ急会成写と
北尾が筆千糸ハ巻嵐が幕下
月星日よ是も物る巻の巻下

根巻の
中村

寛政五癸丑春

作者

千穂萬歳

山東京傳

大叶



通由町
行多屋板





又まねのぶつう...
 へまば
 ひらば
 まん
 く
 月いあひ



初も...
 二寸の虫
 箱
 鬼五郎...
 三寸の虫



「小を中...」
さしゆく...
あつ...

「...」
...
...

柳子公舟の史

...
...



「...」
...
...

「...」
...
...

史

史

史

「...」
...
...



「鬼」の
「三」の
「七」の
「一」の
「二」の
「三」の
「四」の
「五」の
「六」の
「七」の
「八」の
「九」の
「十」の
「十一」の
「十二」の
「十三」の
「十四」の
「十五」の
「十六」の
「十七」の
「十八」の
「十九」の
「二十」の
「二十一」の
「二十二」の
「二十三」の
「二十四」の
「二十五」の
「二十六」の
「二十七」の
「二十八」の
「二十九」の
「三十」の
「三十一」の
「三十二」の
「三十三」の
「三十四」の
「三十五」の
「三十六」の
「三十七」の
「三十八」の
「三十九」の
「四十」の
「四十一」の
「四十二」の
「四十三」の
「四十四」の
「四十五」の
「四十六」の
「四十七」の
「四十八」の
「四十九」の
「五十」の



「鬼」の
「三」の
「七」の
「一」の
「二」の
「三」の
「四」の
「五」の
「六」の
「七」の
「八」の
「九」の
「十」の
「十一」の
「十二」の
「十三」の
「十四」の
「十五」の
「十六」の
「十七」の
「十八」の
「十九」の
「二十」の
「二十一」の
「二十二」の
「二十三」の
「二十四」の
「二十五」の
「二十六」の
「二十七」の
「二十八」の
「二十九」の
「三十」の
「三十一」の
「三十二」の
「三十三」の
「三十四」の
「三十五」の
「三十六」の
「三十七」の
「三十八」の
「三十九」の
「四十」の
「四十一」の
「四十二」の
「四十三」の
「四十四」の
「四十五」の
「四十六」の
「四十七」の
「四十八」の
「四十九」の
「五十」の

鬼の
三の
七の
一の
二の
三の
四の
五の
六の
七の
八の
九の
十の
十一の
十二の
十三の
十四の
十五の
十六の
十七の
十八の
十九の
二十の
二十一の
二十二の
二十三の
二十四の
二十五の
二十六の
二十七の
二十八の
二十九の
三十の
三十一の
三十二の
三十三の
三十四の
三十五の
三十六の
三十七の
三十八の
三十九の
四十の
四十一の
四十二の
四十三の
四十四の
四十五の
四十六の
四十七の
四十八の
四十九の
五十の



かんの虫
油虫
新



かんの虫
油虫
海



由行

切なきの世

つらき世

三つおひき



丁の世

世の世

由行



ちんちんちんちん
 のがあらうま
 くのうまはうま
 うまうまうま
 ちんちんちんちん
 のがあらうま

ちんちんちんちん
 のがあらうま
 くのうまはうま
 うまうまうま
 ちんちんちんちん
 のがあらうま



ちんちんちんちん
 のがあらうま
 くのうまはうま
 うまうまうま
 ちんちんちんちん
 のがあらうま

ちんちんちんちん
 のがあらうま
 くのうまはうま
 うまうまうま
 ちんちんちんちん
 のがあらうま

ちんちんちんちん
 のがあらうま
 くのうまはうま
 うまうまうま
 ちんちんちんちん
 のがあらうま

京傳作



鶴屋



かくて神傳の三どくあて
おけきりその三をうけん
もつておけきりその三を
けんの中から三をうけん
おけきりその三をうけん
おけきりその三をうけん
おけきりその三をうけん
おけきりその三をうけん

ちんじり

癸丑新板目録 仙鶴堂通油町 鶴屋喜右衛門

白妙雪女 化窟見越松

山東京傳作
化の世界から戻ったの上り
おけきりその三をうけん

繪半將門一代記

北尾政美画
全部五冊

青 長物 白髮明神御渡申

十四傾城腹之内

本 暈之白酒 新板道中助六

福徳果報兵備傳

之 皋下旬虫千曾我

龍都鱷鉢本

部 鑑心夢揚柳一腰

增補 登阪寶山道

冊三
増補
秘越



